

＜資料＞旭川市における 特定健診受診勧奨と連携した慢性腎臓病／CKD 疾患啓発の取り組み

NPO 法人 日本腎臓病協会 慢性腎臓病対策部会

北海道ブロック代表 中川 直樹 (旭川医科大学 内科学講座 循環・呼吸・神経病態内科学)

A. 研究目的

慢性腎臓病 (CKD) の早期診断・重症化予防には、特定健診受診率の向上が必要であるが、旭川市の国民健康保険 (国保) 特定健診の受診率は 23.0% (平成 29 年度) で、全国の中核市 54 市中で 53 位と非常に低い。一方、令和 2 年度から、受診率 30%以下の保険者 (旭川市) は、国からの交付金が減額される予定であり、特定健診受診勧奨と CKD の疾患啓発を連携させ、健診受診率向上と CKD 啓発の両者を推進することを目的とした。

B. 研究方法

対象：旭川市内 15 万戸 (旭川市人口 33.3 万人：令和 2 年 4 月 1 日現在)

方法：市内全戸へのポスティングを展開するフリーペーパーへの折込チラシに CKD の疾患概念・重症化予防の意義、特定健診受診の意義を掲載し配布する。

期間：2020 年 2 月

慢性腎臓病(CKD)対策はできていますか？

慢性腎臓病(CKD)は私たちの生活を脅かす新たな国民病です。早く発見し、治療で治すことができます。必ず健康診断を受けましょう！

慢性腎臓病(CKD; Chronic Kidney Disease)とは？

- ①蛋白尿など、腎臓の障害がある
- ②糸球体濾過量(eGFR)が60未満に低下している
- 慢性腎臓病(CKD)は20年の経過が3ヵ月以上持続した状態です

⇒特定健診で慢性腎臓病(CKD)を早期発見できます！

慢性腎臓病(CKD)は…

- ①透析を要する腎不全の予備軍！
早期発見と早期治療が必要と不可欠
- ②心血管疾患(心筋梗塞や脳卒中)の危険因子！
慢性腎臓病(CKD)は心血管疾患の発症率が約3倍です
- ③自覚症状のない「新たな国民病」
自覚症状がないため、ほとんどの慢性腎臓病(CKD)患者さんは自分気づき病であることが多く見られます

慢性腎臓病(CKD)の早期発見には、尿検査、血液検査、自己測定が重要です

特定健診の詳細な案内は画面をご覧ください。

特定健診で慢性腎臓病を早期発見しよう!!

特定健診とは…慢性腎臓病(CKD)の検出、予防、治療、重症化予防の中心となる重要な健康診断です。
注意、通院中の方も医師の診察に申し込まれます。

旭川市国民健康保険の特定健診の場合…
※特定健診 40歳～74歳 ※健康診断 20歳～74歳 ※2年健診 40歳～74歳 ※健康診断(75歳～79歳) ※特定健診(75歳～79歳) ※健康診断(80歳以上) ※健康診断(80歳以上) ※健康診断(80歳以上)

対象者 35歳～ 健診費用 500円(市立市民センター利用時)

実施期間 令和2年3月31日(火)まで

セット型健診「Janet」
1週間以内(17日～19日)の間、1回、1回、1回
※健康診断(40歳～74歳) ※健康診断(75歳～79歳) ※健康診断(80歳以上)

①土日に早朝で健診

日	受付時間	会場
2月16日(日)	7時～11時	旭川市第二市民センター(7-10)
3月7日(土)		

②イオン・おびつたで健診

日	受付時間	会場
2月18日(火)	9時～11時	イオンモール旭川(旭川市旭川1-1)
3月10日(火)		イオンモール旭川(旭川市旭川1-1)
3月13日(金)		イオン旭川(旭川市旭川1-1)
3月17日(火)		イオン旭川(旭川市旭川1-1)
3月24日(火)		おびつた(旭川1-3)

このチラシで特定の健診は、こちらから申し込みを優先して受けたいという方は、このチラシを必ずお持ちください。

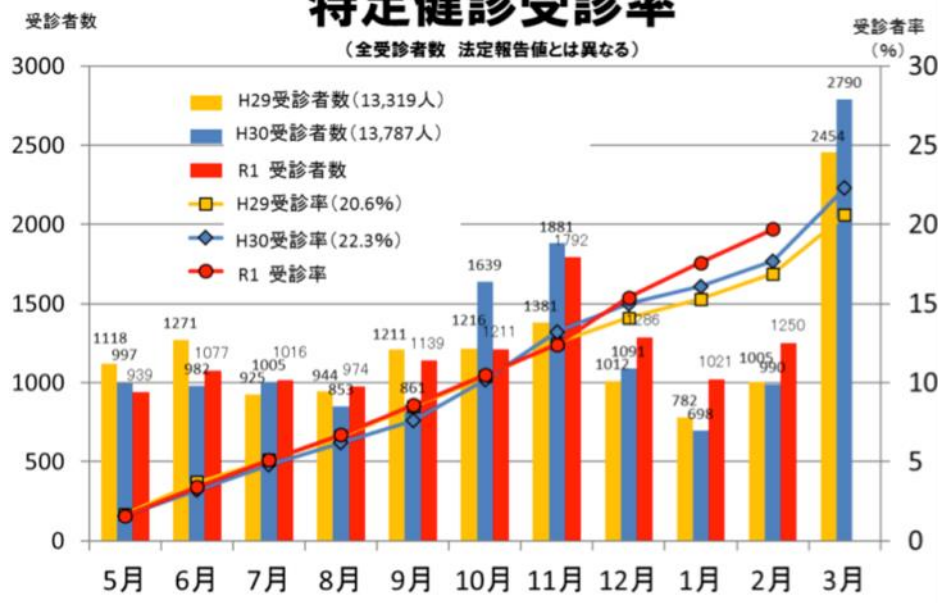
セット型健診の申込み
旭川市国民健康センター ☎0186-53-7111
旭川市国民健康センター ☎0186-53-7111
旭川市国民健康センター ☎0186-53-7111

C. 研究結果

1. チラシ配布の効果

- ・チラシに関する電話の問い合わせが旭川市に 50 件ほど認められた。
- ・2月の特定健診会場には、チラシを持参して来場した住民が多かった。
- ・昨年度、一昨年度よりも2月の受診者数が 25% 増加した。

特定健診受診率



D. 考察

旭川市において、特定健診受診勧奨と連携した慢性腎臓病／CKD の疾患啓発の取り組みとして、広く配布可能で保管可能な広告媒体である折込チラシによる普及啓発を推進した。

チラシ配布後には、チラシ内容に関する問い合わせが多く、健診会場にチラシを持参して受診する住民もみられ、実際に2月の健診受診率が前年度比25%増と効果が得られた。例年3月の受診者数が最も多いことから、さらなる効果が得られることが期待されたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、予定されていた全ての集団健診が中止となり、その効果は限定的になる可能性が考えられた。

今回、新聞内の広告ではなくチラシを採用したことで、手元に保管している住民がいると思われ、健診受診の意義とCKDの継続的な啓発に繋がることが期待される。また、CKDの認知度向上の検証については次年度以降の課題である。

CKDの疾患啓発を進めていくうえで、特定健診受診勧奨とも連携した対策は有効である可能性が示唆され、今後行政のみならず協会けんぽ、健康保険組合、共済組合等の保険者との連携体制構築が必要である。